

英語教育をイノベーションするスーパー・ティーチャー養成モデルの構築 ーカナダ・ビクトリア大学におけるハイブリッド型TEFL研修を含む英語プログラムー

調査の概要

◆課題認識

- 日本人の英語力向上に向けた英語教育改革に目立った成果が見られない
- 英語教員の英語力および英語教授スキルの不足が根本原因では？

◆調査研究の目的

高度な英語運用能力と言語習得・教育理論に裏打ちされた英語指導力を備えた教員の養成のためのハイブリッド海外研修開発とそのカリキュラム化

◆研修先

- カナダ・ビクトリア大学
- 2012年の協定締結以降、本学学部学生へのESLプログラム、および現職教員向けTEFL研修を提供

◆研修の内容

- 7週間のオンライン研修（指導法研修）
 - 4週間のカナダでの英語研修
 - 1週間のカナダでの指導法集中研修
- *令和3年度はCOVID-19のため全てオンライン研修

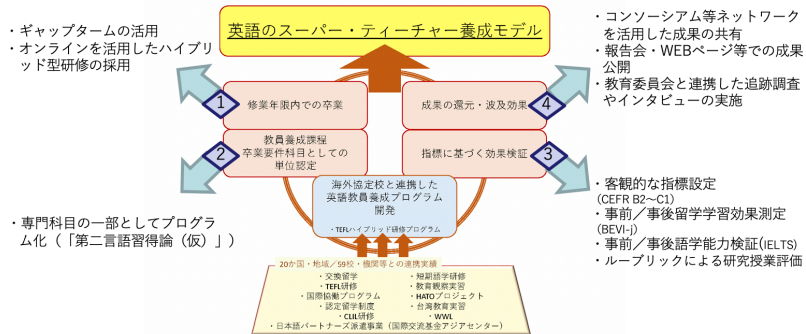
取組のポイント・成果

◆主な取組のポイント

- ギャップタームの活用
必修・専攻科目のないタームの研修のため、集中的な取り組みが可能
- 教員養成専門科目としての位置付け
令和4年度から専攻専門科目「第二言語習得論」としてカリキュラム化
- 客観指標に基づくフィードバック
外部英語試験や模擬授業等の事前／事後比較を通して、英語教師としての成長に必要なフィードバックを提供

◆成果

- 令和3年12月から令和4年3月にかけて実施する7週間のオンライン＋5週間のカナダでの研修から構成される研修を開発・実施して、10名が参加することとなった。
- COVID-19の影響でカナダでの研修が中止となり、当該部分をオンラインで実施した。
- 参加10名中9名が研修を完遂し、Certificate of Completion in Advanced Skills in Teaching English as a Foreign Languageを授与された。
- 語学授業分析ループリックFlintを用いた模擬授業の研修前後の比較から、形式だけでなく内容面の効果的な取り扱いが増えるなど、参加者の授業の質の向上が確認された。
- その他の指標については本報告作成段階ではデータ収集・分析途中



今後の課題

- COVID-19の影響で現地実習が実施できなかったため、次年度以降危機管理体制の再構築や研修効果の再検証をする必要がある。
- 模擬授業評価の数値的な上昇は限定的なものであったことなどから、研修全体の目標をより明確に参加者に提示する必要がある。